

# 第11回 四国におけるCNP形成に向けた勉強会 開催報告

四国地方整備局では、CNPに関する知見を深め、脱炭素化に向けた取組を官民で連携して継続的に推進することを目的として、令和3年度より、学識経験者や四国の民間事業者等をメンバーとする「四国におけるCNP形成に向けた勉強会」を開催しています。

このたび、第11回勉強会を開催し、行政機関による情報提供に加え、脱炭素化に向けた新技術として「電動フォークリフト」と「陸上電源」の2つをテーマに講演を行いました。

○日時：令和8年2月2日（月）10:30～12:00（WEB）

○参加機関：学識経験者（愛媛大 森脇教授、高知工科大 西内教授、  
谷グリーンエネルギー研究所 谷代表取締役）  
民間事業者、港湾管理者、関係団体、金融機関、国等関係機関  
計79者

## ○議事

1. 開 会
2. 行政機関からの情報提供・取組の報告
  - 1) 国土交通省港湾局からの情報提供
  - 2) 経済産業省からの情報提供
3. 脱炭素化に向けた新技術等について
  - 1) 電動フォークリフト等について／コマツカスタマーサポート株式会社
  - 2) カーボンニュートラルレポートの形成 ／神戸市港湾局
4. 意見交換
5. 閉 会



## 【学識経験者からの主なご意見】

- ・今日の議論や全体の動きをみても、キーワードはやはりGXである。GXの議論では、目の前のテーマにとらわれすぎず、最終目標であるカーボンニュートラルや脱炭素の実現に立ち戻ることが重要である。戦略と戦術を混同せず、本来の目的を見失わないよう確認しておきたい。
- ・計画を作成すること自体がゴールでなく、計画に示された将来像をどのように実現していくかが重要である。そのためには、今日の勉強会でも紹介されたような新しい技術が「いつ・どこで使えるのか」を理解しておくことが共通の認識である。
- ・行政、民間、国際動向が連動しながらすでに準備を進めている点は非常に心強く、今後も引き続き先手を打った対応が必要と考えている。